

市の考えを問う 一般質問

9月14日・15日・16日の3日間行われた一般質問の主な質問（Q）と答弁（A）の概要を掲載します。



農業大学校内の広大な畑

Q 埼玉県農業大学校用地の活用は

A 自然と調和した産業基盤を整備

大曾根英明 議員

質問一 今までに集約・把握した地元の意見について。

二 県の行う戦略的環境影響評価と基本構想の策定について。

三 企業誘致の方向性と水土里の交流圏構想における位置付けについて。

答弁一（市長） 地元自治会、各種団体などと意見交換会を行い、歴史的な経過も踏まえて地元のためになるようにしてほしい、地元密着型の企業を誘致し、雇用の場を確保してほしい、運動施設や樹林地、水路などを整備してほしい、といった意見をいただいている。
二 県では、自然環境に配慮した産業基盤の整備を検討しており、その手続きの一つとして戦略的環境影響評価を進めている。11月には、予測評価に対する報告書がまとめられ、公告縦覧、公聴会などが行われる予定である。これらの

結果も踏まえて平成22年度末を目途に基本構想がまとめられる。

三 水土里の交流圏構想を進めるうえで、農業大学校用地への企業誘致のインパクトは大きい。市としては、自然環境に配慮しつつ、市全体の活性化につながる力強いテーマに貫かれた企業群の形成も目指し、県とともに事業を進めていきたいと考えている。



女性センターでの市民広聴会

Q

市の総合計画について

A

市の将来像を市民と共有

長谷川 清 議員

質問一 総合計画の全般について。
二 第4次総合計画について。
三 第5次総合計画について。

答弁一（市長） 総合計画は、

最小の経費で最大の効果を上げるため、将来を見通した計画的な行政運営の基本方針であり、自治体の最上位の計画に位置付けられてきた。地方自治法の一部改正により、策定の義務付け廃止の方向にある

が、市としては計画的な行政運営に必要であると判断し、策定を進めている。

二 この10年間においては、一定の成果はあったものの、十分に活用してきたと言えない面もある。今後は市民と共有する目的をしっかりと掲げ、現状と課題を明確にし、解決のための取り組みを進めて目的を達成していくという、実効性のある計画策定を進めていく。
三 第5次総合計画の策定に当たっては、中間段階で素案を公表し、移動市長室や団体ヒアリングなど、広く市民との意見交換を行っている。また計画の具体性を確保するため、施策の目的、現状、課題を区分して記載するとともに、進捗状況の目安となる成果指標を導入し、策定後の進行管理を行うことで、成果志向の市政運営に努めていきたいと考えている。